

# 現処理計画検討時における各予測結果と実績との比較(産業廃棄物)

## 1 検証の手法

排出量及び最終処分量について、20年度の実績値と予測値を比較し、実績値との差が5%未満のものを○、10%未満を△、10%以上を×として評価した。再生利用率については、実績値との差が3.2ポイント未満のものを○、6.3ポイント未満を△、6.3ポイント以上を×とした。また、総合評価は、各項目の評価値を○=2点、△=1点、×=0点として得点化し、合計値が4点以上を○、2点以上を△、2点未満を×として評価した。

なお、現計画では、産業廃棄物については国の基本方針に即した予測を採用した。

## 2 比較結果

### (1) 排出量

平成20年度の排出量予測値は、単純推計による予測で14,188千トン、事業者取組を考慮した予測で14,485千トン、国方針による予測で14,224千トンであった。一方、実績値は16,418千トンで、実績とよく似た予測結果はなかった。

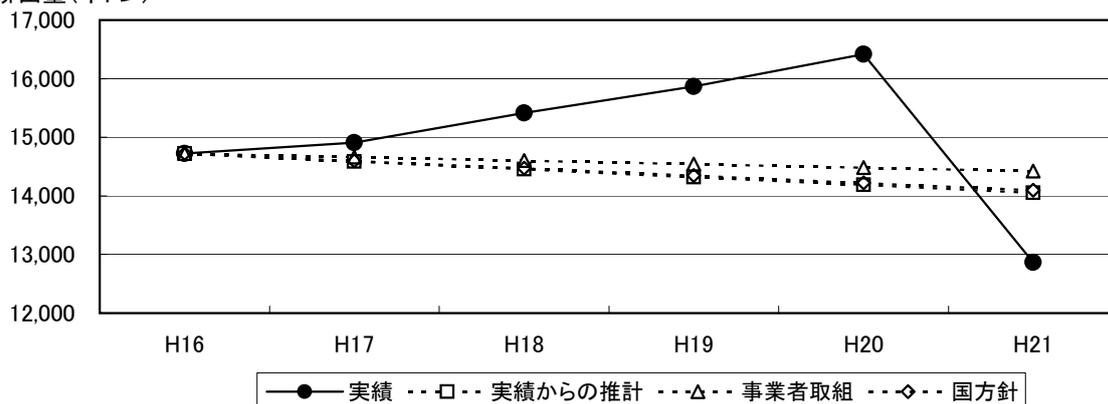
排出量の実績は、いずれの予測よりも増加した結果(平成21年度を除く)となったが、これは本県における製造品出荷額等の前年度に対する伸びが、平成11～15年の平均100.5%に対し、平成16～20年の平均は105.6%と伸び率が大きくなったことが要因として挙げられる。

### ■ 排出量

単位:千トン

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	実績との差 (H20)	評価
実績	14,723	14,910	15,417	15,865	16,418	12,867		
実績からの推計	14,723	14,589	14,456	14,322	14,188	14,055	-13.6%	×
事業者取組	14,723	14,664	14,604	14,545	14,485	14,426	-11.8%	×
国方針	14,723	14,598	14,474	14,349	14,224	14,100	-13.4%	×

排出量(千トン)

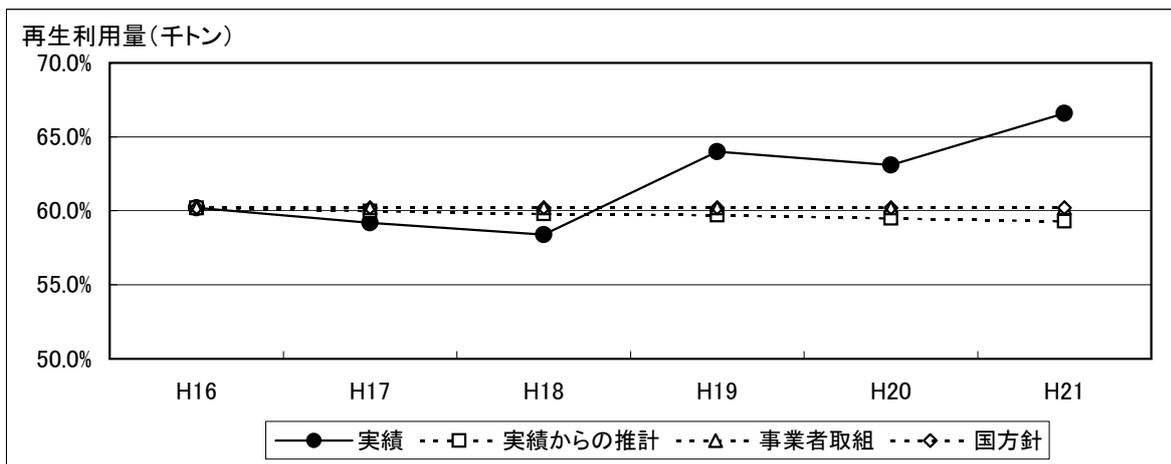


### (2) 再生利用率

平成20年度の再生利用率予測値は、事業者取組と国方針による予測で60.2%、単純推計による予測で59.5%であった。一方、実績値は63.1%で、いずれも実績に概ね近い結果であった。

### ■ 再生利用率

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	実績との差 (H20)	評価
実績	60.2%	59.2%	58.4%	64.0%	63.1%	66.6%		
実績からの推計	60.2%	60.0%	59.8%	59.7%	59.5%	59.3%	3.6ポイント	△
事業者取組	60.2%	60.2%	60.2%	60.2%	60.2%	60.2%	2.9ポイント	○
国方針	60.2%	60.2%	60.2%	60.2%	60.2%	60.2%	2.9ポイント	○



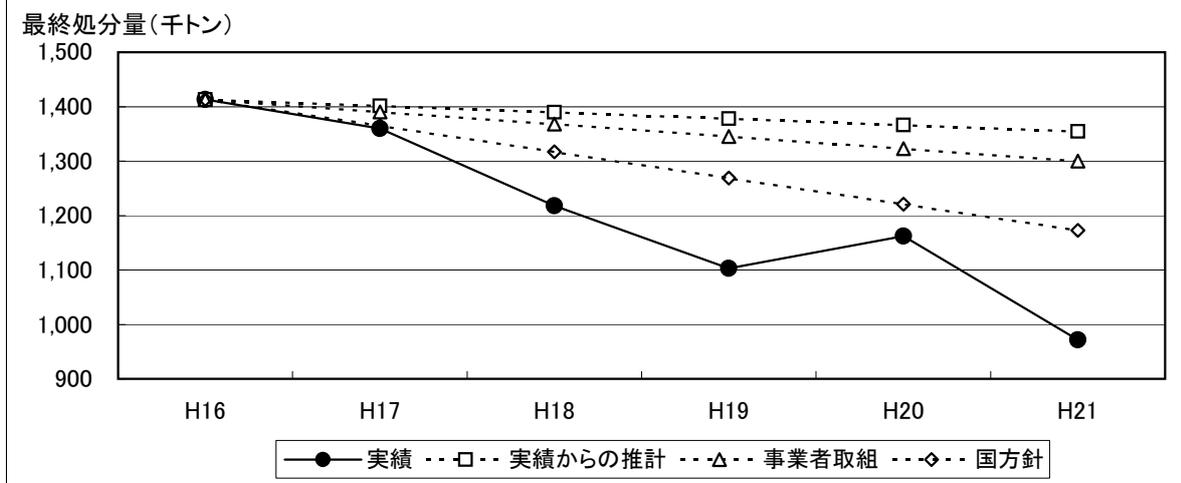
### (3) 最終処分量

平成20年度の最終処分量予測値は、単純推計による予測で1,366千トン、事業者取組を考慮した予測で1,323千トン、国方針による予測で1,221千トンであった。一方、実績値は1,162千トンで、国方針が比較的近い値を示すものの、全体的な傾向としては近い予測結果はなく、いずれの予測よりも最終処分量の削減が進んだ結果となった。

#### ■最終処分量

単位:千トン

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	実績との差 (H20)	類似度
実績	1,413	1,360	1,218	1,103	1,162	972		
実績からの推計	1,413	1,401	1,390	1,378	1,366	1,355	+17.6%	×
事業者取組	1,413	1,390	1,368	1,345	1,323	1,300	+13.8%	×
国方針	1,413	1,365	1,317	1,269	1,221	1,173	+5.1%	△



### 3 まとめ

予測結果の評価結果をまとめると、いずれも特に実績値に近い結果を示した予測手法はなかったが、国方針による予測結果が比較的近い結果と評価できる。

#### ■ まとめ

	排出量	再生利用率	最終処分量	総合評価
単純推計	×	△	×	×
事業者取組	×	○	×	△
国方針	×	○	△	△